

加須市まちづくりアンケート調査結果報告書



令和7年2月

加 須 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	3
2	調査の方法	3
3	調査項目	3
4	回収結果	3
5	報告書の見方	3
II	調査の結果	5
1	回答者の属性	7
2	加須市の住みごちについて	10
	（1）加須市の住みやすさ	10
	（2）定住意向	12
	（2）－1 住み続けたい理由	14
	（2）－2 転出したい理由	16
3	まちづくりについて	18
	（1）まちづくりの満足度・重要度	18
	（2）重点取組	80
4	加須市の施設等について	86
5	自由記入意見	106
III	調査票	109

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、加須市の市政運営の指針となる「総合振興計画 後期基本計画（基本構想で定めた将来の目標などを実現するための基本的政策を体系的に整理し、具体的に実施する施策を示す計画）」の策定にあたって、市民の意見を広く反映させるための基礎資料とするために行ったものである。

2 調査の方法

- ① 調査対象：市内居住の18歳以上の男女
- ② 対象者数：5,000人
- ③ 抽出方法：住民基本台帳（令和6年10月21日現在）から無作為抽出
- ④ 調査方法：郵送配布、郵送・インターネット回収
- ⑤ 調査期間：令和6年11月20日送付、12月6日締切

3 調査項目

- ① 回答者の属性について
- ② 加須市の住みごちについて
- ③ まちづくりについて
- ④ 加須市の施設等について
- ⑤ 自由意見

4 回収結果

- ① 標本数：5,000票
- ② 有効回収数：1,506票
- ③ 有効回収率：30.1%

5 報告書の見方

① 集計について

比率は、全て百分率（%）で表し、小数点第2位以下を四捨五入して算出している。従って、比率の合計が100.0%に満たない、あるいは超える場合がある。

また、複数回答の設問については、1人の回答者が2つ以上の回答をしてもよいことから、比率の合計が100.0%にならない場合がある。

② 用語の取り扱いについて

図表及び文章中で、選択肢の文言を一部省略して用いている。

③ 設問ごとの集計の有効回収数

グラフや表で、“ $n=1,506$ ”や(1,506)と表記してあるのは集計の有効回収数である。全員が回答すべき設問では1,506となるが、回答者が限定される場合は、この数を下回る。

住民基本台帳から無作為抽出による調査を行っているため、調査結果には統計上の誤差が生じることがある。今回の単純集計の場合の標本誤差（信頼度を 95%とした場合）は、下の式により求められる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \cdot \frac{P(1-P)}{n}}$$

N = 母集団の数

n = 有効回収数

P = 回答率

■まちづくりアンケートの標本誤差 サンプル数 1,506

回答率	標本誤差 (%)
10%または90%	± 1.5
20%または80%	± 2.0
30%または70%	± 2.3
40%または60%	± 2.5
50%	± 2.6

たとえば、問2の加須市の住みごちを聞いた設問の結果で、「どちらかといえば住みやすい」が47.7%であるが、これを表の回答率30%の標本誤差「±2.3%」をあてはめると、

とみることができる。信頼度 95%であることから、同様の調査を 100 回行った場合に、95 回は、45.4～50.0%の範囲になると見込むことができる。